

# 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

|       |            |
|-------|------------|
| 区 名   | 住吉区        |
| 学 校 名 | 大阪市立南住吉小学校 |
| 学校長名  | 小西 正晃      |

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南住吉小学校では、第6学年 132名

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

昨年度は未実施となったので、単純には比較できないが、国語の平均正答率は全国平均・大阪市平均を下回るもののその差は縮小している。算数については、ほぼ平均と比肩する結果となった。これらのことから、基礎・基本を充実させる本校の継続した取り組みが功を奏し、徐々にではあるが学力が向上してきていることがうかがえる。また、平均無回答率に関しては、国語では例年よりやや高い傾向を示したが、算数では全国平均・大阪市平均より低い結果となっている。このことについては、難しいと思う課題に対しても簡単にあきらめず、粘り強く解決に向けて取り組んでいることが分かる。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕領域別にみると各教科でも取り組んでいる「話すこと・聞くこと」の領域では、大阪市平均に比肩しているが、「書くこと」や「読むこと」の領域においては大きな差が見られる。今後は、「書く」力をつけるためには作文指導や日記指導、「読む」力をつけるためには教科書を中心とした丁寧な学習指導や読書に対する興味関心を高める読書指導などに注力する必要がある。

〔算数〕今年度は「図形」領域を除く3領域において全国・大阪市平均と並ぶ結果となった。これは、朝学習や習熟度別少人数指導を通じて個に応じた学習を重ねてきた結果だと思われる。しかし、「図形」領域に関しては、全国平均だけでなく、自校の他の領域と比べても大きな差がある。これについては、さらに内容分析を加え弱点の克服に取り組む必要がある。

質問紙調査より

自尊感情や自己肯定感はやや低い傾向にあるものの、自己の将来像や規範意識に関しては全国平均と並ぶ結果となっている。今後も積極的に承認することで自尊感情や自己肯定感の向上を図る。

家庭学習については、計画性に乏しく時間も短い傾向にある。学校では、保護者に対し「家庭学習の手引」を配布し、学年だよりなどで啓発を継続しているが、十分な活用につながっていないと思われる。今後は、懇談会などの機会も利用し、繰り返し協力を求めていく。

読書に関しては「本を読むことが好き」と肯定的に答える児童が70%程度いるものの、家庭での読書時間は短い傾向にある。今後は、学校図書館主任を中心に派遣されている司書・図書館補助員・ボランティアとの連携を継続し「読み聞かせ」の実施やボランティアによる図書館の開館回数の引上げ、「絵本広場」の開催など本に親しむ機会を確保するとともに、調べ学習や読みたい本の相談などの要求に応じたレファレンス業務も展開していく。

## 今後の取組(アクションプラン)

国語科・算数科ともに正答率が向上してきていることから、今後も継続した取り組みにより基礎基本のより一層の定着を行う。特に、習熟度別少人数指導の充実やデータ配信教材の活用、「waku×2.com-bee」を活用した授業改善を行う。さらに、デジタルドリルの有効な活用を図ることで、弱点の克服や個に応じた支援のみならず、発展問題への取り組みもできるようにする。

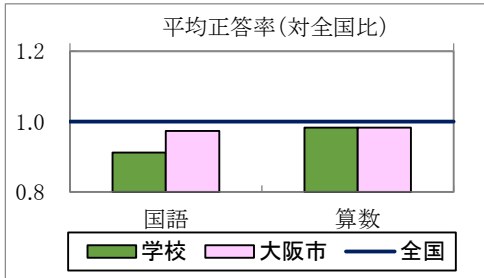
自尊感情や自己肯定感を向上させるために、学習面だけでなく生活面でもより細やかな観察を行い積極的に承認するよう心がける。また、スクールライフノートの活用も図っていく。

家庭学習については、毎年配布している「家庭学習の手引」の効果的な活用方法を探るとともに、個に応じた内容を出題するなどして自主的に取り組めるような習慣付けを図る。

# 【 全体の概要 】

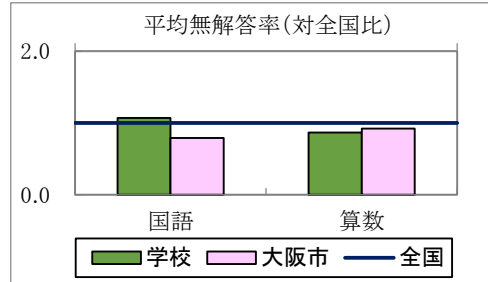
## 平均正答率（％）

|     | 国語   | 算数   |
|-----|------|------|
| 学校  | 59.0 | 69.0 |
| 大阪市 | 63.0 | 69.0 |
| 全国  | 64.7 | 70.2 |



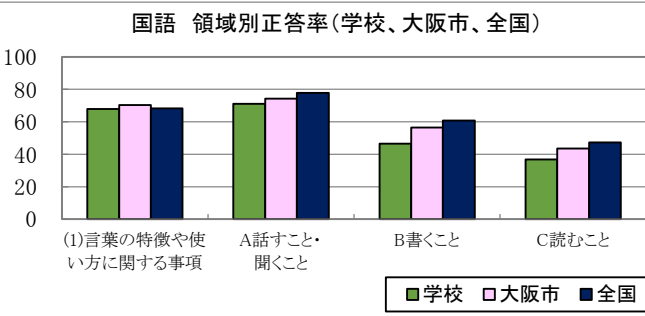
## 平均無解答率（％）

|     | 国語  | 算数  |
|-----|-----|-----|
| 学校  | 4.6 | 2.3 |
| 大阪市 | 3.4 | 2.4 |
| 全国  | 4.3 | 2.6 |

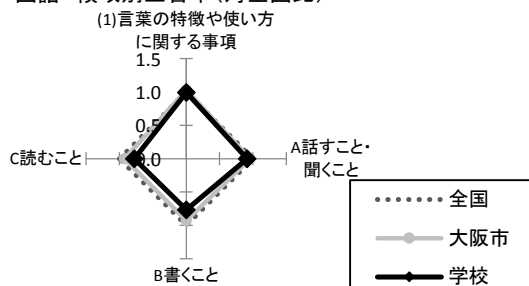


## 【 国 語 】

| 学習指導要領<br>の内容          | 対象<br>設問数<br>(問) | 平均正答率(%) |      |      |
|------------------------|------------------|----------|------|------|
|                        |                  | 学校       | 大阪市  | 全国   |
| (1)言葉の特徴や使<br>い方に関する事項 | 6                | 67.8     | 70.3 | 68.3 |
| (2)情報の扱い方<br>に関する事項    | 0                | 0.0      | 0.0  | 0.0  |
| (3)我が国の言語文<br>化に関する事項  | 0                | 0.0      | 0.0  | 0.0  |
| A 話すこと・聞くこと            | 3                | 71.1     | 74.3 | 77.8 |
| B 書くこと                 | 2                | 46.5     | 56.4 | 60.7 |
| C 読むこと                 | 3                | 36.7     | 43.5 | 47.2 |

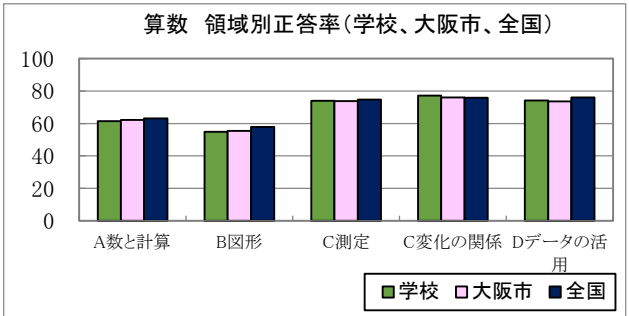


### 国語 領域別正答率(対全国比)

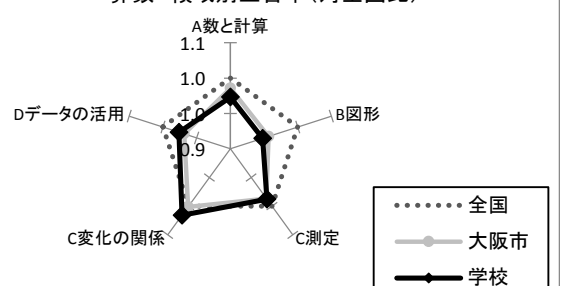


## 【 算 数 】

| 学習指導要領<br>の内容 | 対象<br>設問数<br>(問) | 平均正答率(%) |      |      |
|---------------|------------------|----------|------|------|
|               |                  | 学校       | 大阪市  | 全国   |
| A 数と計算        | 4                | 61.4     | 62.2 | 63.1 |
| B 図形          | 3                | 54.9     | 55.4 | 57.9 |
| C 測定          | 3                | 73.9     | 73.8 | 74.8 |
| C 変化と関係       | 3                | 77.1     | 26.0 | 75.9 |
| D データの活用      | 5                | 74.2     | 73.6 | 76.0 |



### 算数 領域別正答率(対全国比)



# 児童質問紙より

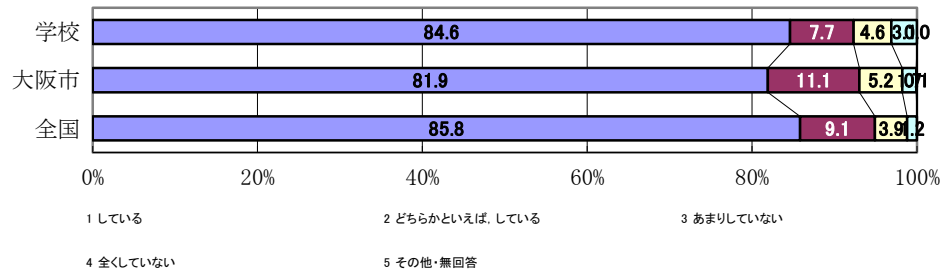
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

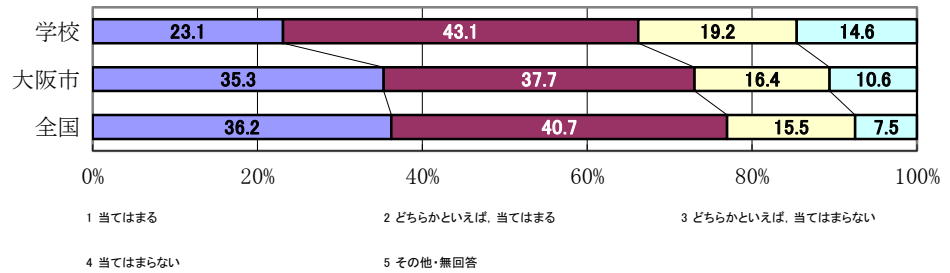
1

朝食を毎日食べていますか



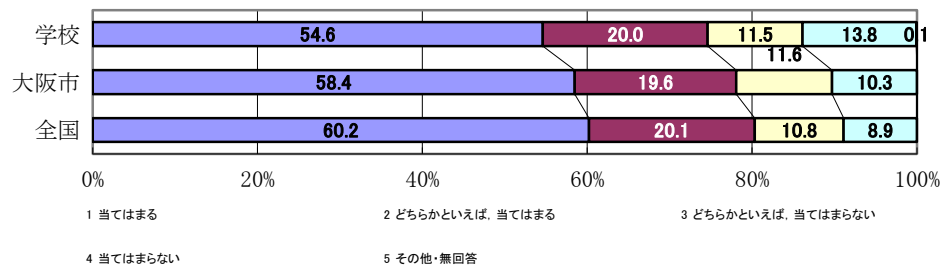
6

自分には、よいところがあると思いますか



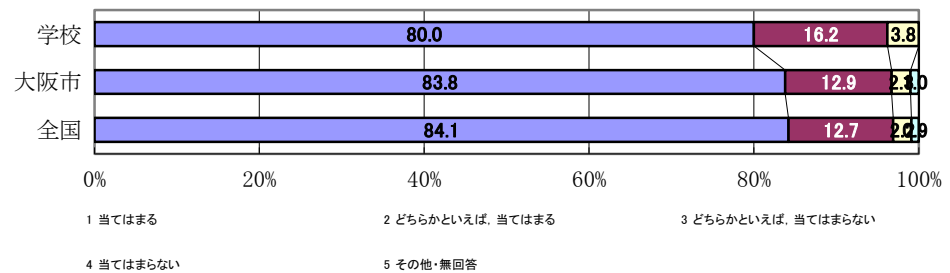
7

将来の夢や目標を持っていますか



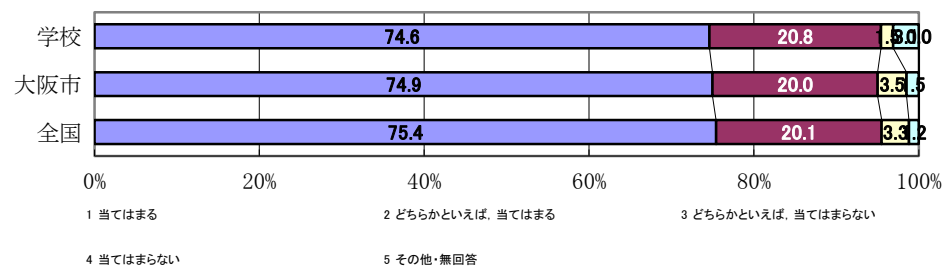
11

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



12

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



# 学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8

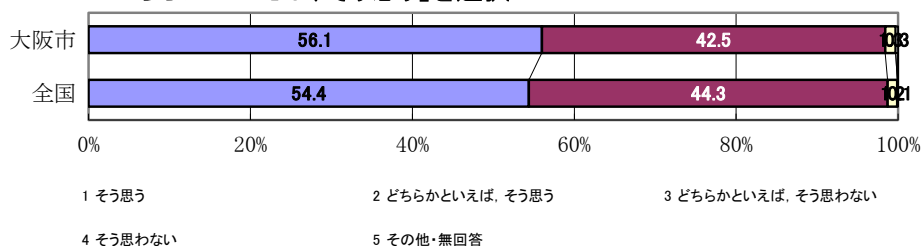
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

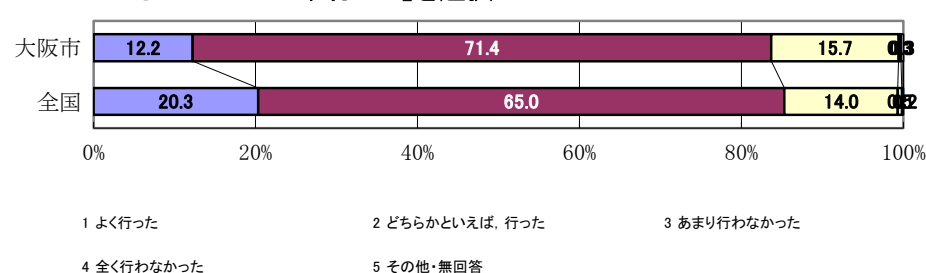
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



8

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

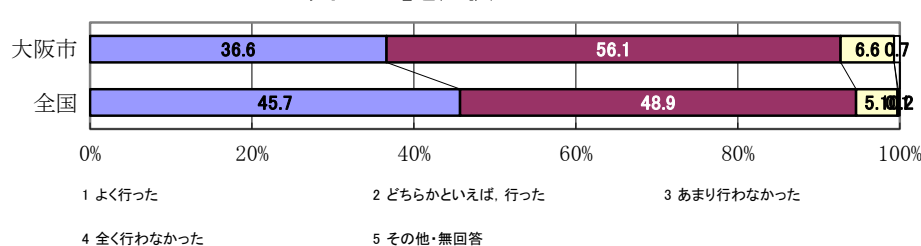
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



9

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか

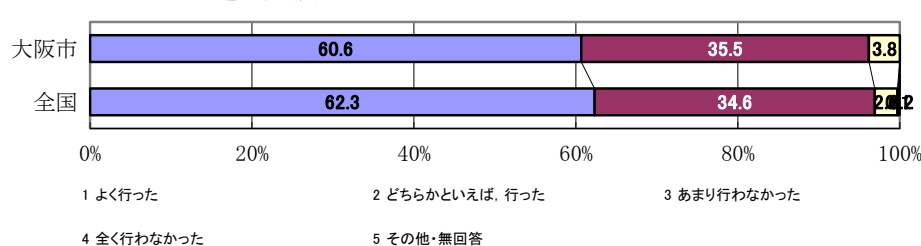
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



10

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習規律(他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど)を維持しましたか

学校 「よく行った」を選択



17

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

学校 「どちらかといえば、取り組んでいる」を選択

